(第60号)

自見はなこを国政へ!

発 行 所 大阪府医師政治連盟 大阪市天王寺区上本町 2丁目1-22 大阪府医師会館内 TEL06(6763)7004

平成28年夏 参院選比例代表 (全国区)候補予定者に決定

はなこと申します 1976年2月生、長崎県佐世保市出身 東海大学医学部医学科卒業、東海大学医学部付 属病院初期研修、池上総合病院内科後期研修 東京大学医学部小児科入局・同付属病院、青梅 市立総合病院勤務 もの門病院小児科(非常勤)所属

愛嬌ある人懐っこさと、どっしりとした根性を併せ持つ

大阪府医師政治連盟は 全力を挙げて応援します [部内資料]

なこ氏を

第24回参議院議員比例代表選挙における日医連推薦候補者について協議。 科)のみが11都県医師連盟の推薦を受けており、日医連の組織内候補とし かねてより公募したところ、自見はなこ氏(東京大学医師会所属・小児 医師会館で日医連執行委員会を開催した。席上、平成28年7月実施予定の て自民党からの擁立が承認された。 日本医師連盟(日医連/横倉義武委員長)は、平成26年11月25日、日本

で決定した。 府医会館で臨時委員会を開催し、 これを受けて、大阪府医師政治連盟(伯井俊明委員長)は、11月28日、 日医連と同様に自見氏の推薦を満場一致

と考えております。



課せられた役割は 支え合う安心の 医療の姿

際になり、やはり人に

た。

ものだと気付きまし

引き締まる想いでおり 大きいと認識し、身が 役に立ちたい

す。日本医師連盟執行

自見はなこと申しま

候補として推薦された いる医療制度を守りた 輩者が組織を代表する 日本社会を底支えして 私のような勤務医の若 そのた め、国家安定のため、 い。そのための私心の 私は、切に国民のた

ことはなく、

推薦していただき、深

代表選挙の候補として

医療を守る 強固な一枚岩に

れましたが、小学2年

院勤務医の家庭に生ま

私は、九州の大学病

夏、第24回参議院比例 委員会にて、平成28年

ます。

日医連始まって以来、 く感謝申し上げます。

> 津々浦々、医師が勤務 候補者公募に応募しま した。今、まさに全国 橋になりたいと思い、 ない、だが強固な架け 生の時以来、 ました。母の実家は長 政治と大変関わり 約30年

を守っていく強固な一 医、女性医師を含め一 考え、お役に立ちたい 枚岩になるべき時期と **致団結し、日本の医療** りました。終戦を迎え たアンダマン諸島で地 湾攻撃に参戦した空母 の祖父は戦時中、真珠 崎県佐世保市で、母方 まれた母には、祖父は 飛龍の軍医長をしてお 業しました。戦後に産 する前に国際機関で働 戦争の悲惨さは語ら きて佐世保に戻り、 赦となり、奇跡的に生 学国際関係学類を卒業 きたいと思い、筑波大 た私は、医学部に進学 ような家庭環境に育っ ていたことなどから恩 元住民のマラリアに対 し聞かせました。この してキニーネを処方 ております。卒業間 働きなさい」と話り 常に「お国のため

政治家秘書を経験

した。卒業後、地域に 海大学医学部学士編入 職業に就きたい、医師 になりたいと思い、東 接触れて役に立てる 前までは、病院と家を 往復するだけのような 毎日でした。当時は、 「医師の職業は尊く、 政治の仕事を手伝う

後、東京大学小児科に を掲げる開業医を目指 密着した小児科・内科 入局し、関連病院の虎 後期研修を行い、その の門病院小児科で勤務 し、初期研修後は内科 医療の現場から し、現在に至ります。

りします。 える社会は、複雑な家 考えています。日々の ております。 治の仕事を手伝い、週 午前は外来、午後は政 しようと、数年前より 医が取れたら恩返しを らったことから、専門 級生が就職する中、両 り、会社と育児の両立 庭環境やシングルマザ す。小児科外来から見 外来で子どもと接し、 の医学部に通わせても 親に無理を言って私立 に悩む母親の姿だった 大きな喜びを感じま 親御さんと話す時間に に与えた天職であると 1回当直をして過ごし 社会を直視 私は、筑波大学の同 小児科医は神様が私 の経済苦であった

ならない 者は強くなければ 正しき主張をする 国家安定のため

大切な社会インフラの ひとつと考えます。30 ち、英知と経験を兼ね れから時代を担ってい 代・40代の医師も「こ 備えた諸先輩方からご して暮らせるもっとも く」という当事者意識 医療は、 強い責任感を持 人々が安心 もに、1票ずつ積み上 げるため、誠心誠意、 努力しますので、よろ 1年5カ月を皆様とと いますが、これからの 非力な若輩者でござ

と団結の上に存在 制度は諸先輩方の

存在するものではな き、特に他の組織団体 上にしか存在し得ない く、先人や諸先輩方の とのできる国民の生活 りだと感じるに至りま からも陳情を受ける側 たゆまぬ努 度、安心して過ごすこ 成り立つ国民皆保険制 栄や、そしてその上に した。今ある日本の繁 たん病院の外に身を置くなければならない」 社会保障の て、この考えは全く誤 お手伝いをするにつれ の政治や行政の立場の と、ぼんやり考えてお も、与えられて当然」 り、その処遇について を張って日々支えてお は、決して当たり前に りました。 力と団結の 根幹を身体 とつなし得ません。 とが必要であり、覚悟 と思います。与えられ うな活動をしてまいり 票数でその力を示すこ 先輩のご指導の下、得 を主張するものは、強 のために、正しいこと 見つめ、「国家の安定 感じています。 にもしっかりと届くよ く、私一人では、何ひ を決めました。全国津 た投票日までの時間 根ざした国の在り様を 療の姿」を訴え、医療 々浦々、選挙区は広 は、約1年5カ月。諸 職のみならず患者さん 「支え合う 安心の医 日本の文化と風土に

と考えております。 ながら一端を担えたら も発信するよう、微力 で取り組み、政治的に 輝く社会にすること、 も男性もその人らしく を全うしながら、女性 持と、医師という職業 山積する医療を取り巻 る国民皆保険制度の堅 く課題に、医療界全体 社会を根底から支え

伯井委員長、支援を要請 票数こそが発言力_

めていく必要があると 教授を仰ぎ、活動を進

しくご指導ください。